



平成 27 年 6 月 30 日(火)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 7月号

### 60年続く立ち居振る舞い

校長 佐々木 秀之

梅雨の晴れ間の中に、夏の日差しを思わせる太陽が照りつける頃となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、ご健勝にて日々ご多用の毎日をお過ごしのこととご推察申し上げます。

さて、先日 20 日(土)に挙行いたしました、開校 60 周年記念式典・祝賀会、それに先立ち 13 日(土)に実施いたしました、開校 60 周年記念集会におきましては、保護者の皆様、地域の皆様に温かいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

\*

記念式典、記念集会の子供たちの態度、呼びかけ、合唱などについて、多くの皆様から「素晴らしい」「感動しました」「品がありますねえ」というお言葉をいただき、大変うれしく思いました。私も、当日の子供たちの声、所作、立ち居振る舞いは大変立派であったと思います。

しかし、立ち居振る舞いはその日だけやろうとしても、できるものではありません。日々の中で常に心がけ、継続することで、自然と身体に染み付き習慣化されるものです。そして大切なことは、立ち居振る舞いは相手を思う気持ち、相手を敬う気持ちを体で表現することだということです。子供は全員、大勢のお客様に感謝の気持ちを言葉、歌、そして立ち居振る舞いで示してくれました。

立ち居振る舞いは、その人の心を表します。慌てていたり、怒っていたりすると、動きも雑になったり、威圧的に見えたりします。また、なんとなく気分が乗らないと動きにメリハリがなく、ダラダラした印象になったりします。逆に心に余裕があると、丁寧でしかもきびきびとした動きになります。不思議なものです。

学校だけでなく、日常生活の中でも素敵な立ち居振る舞いが自然に出来れば、きっと人生そのものが豊かになると思います。記念式典、記念集会での子供たちの立ち居振る舞いは、60年積み上げてきたからこそできる立ち居振る舞いであると思います。

\*

本年度からは、全校で「言動分離」～あいさつをしてから礼をする～、いわゆる「語先後礼」に取り組んでいます。すでにその習慣は定着しており、本校の新たな校風となっています。子供たちや保護者の皆様、地域の皆様の心の故郷として、そして、それぞれの夢や願いを実現させる場所として、皆様のお力をお借りしながら、開進第四小学校の新たな歴史を創り上げてまいります。